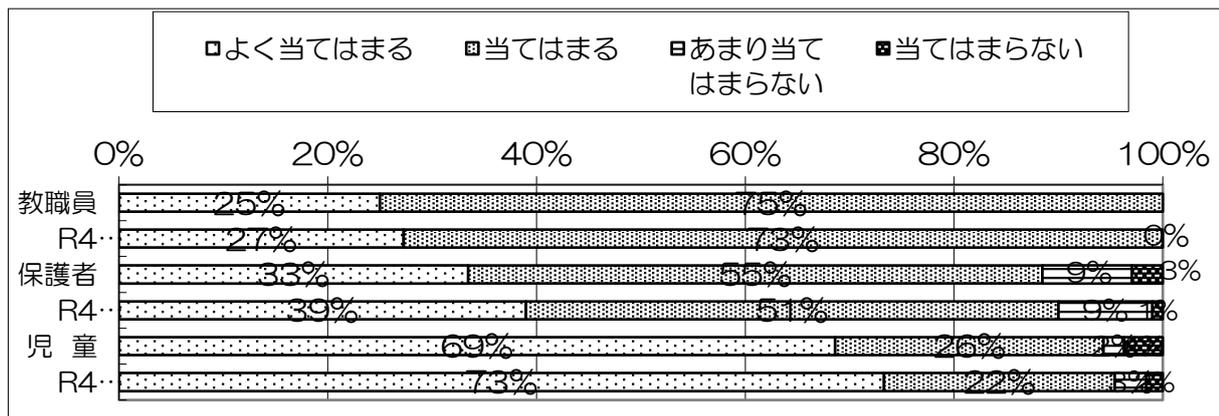


令和5年度 本校教育に関する調査結果について

栃木市立吹上小学校

1 児童は、学校が楽しいと感じている。

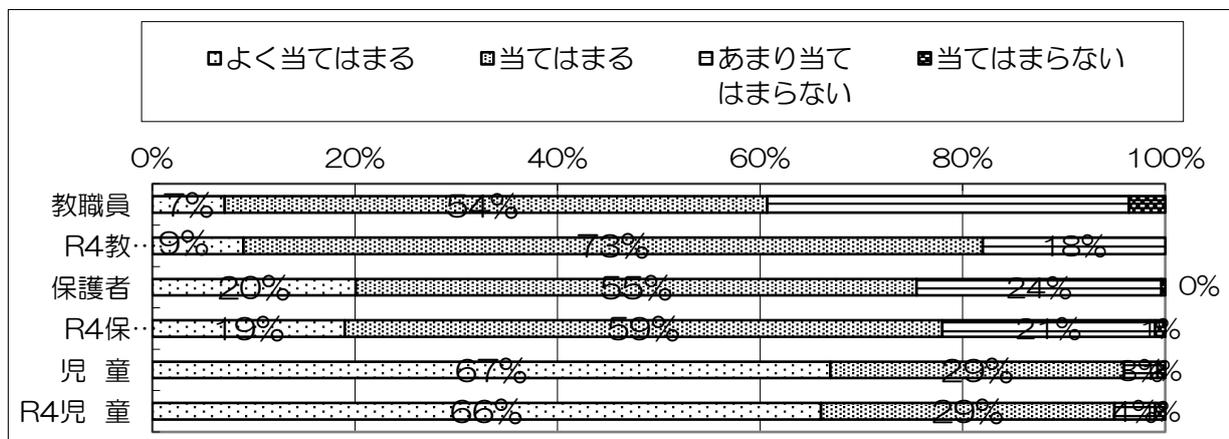
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
教職員	25%	75%	0%	0%
R4教職員	27%	73%	0%	0%
保護者	33%	55%	9%	3%
R4保護者	39%	51%	9%	1%
児童	69%	26%	2%	4%
R4児童	73%	22%	3%	2%



昨年度との比較では大きな差がみられなかった。教職員も児童も肯定的な意見が9割を超えている。しかし、1割を超える保護者が否定的な回答をしている。児童の学校での様子と家庭での様子の違いも考えられる。学校での児童の様子を保護者に伝えるなど、より一層保護者との連携を密にしていける必要がある。今後も一人一人に目を向け、児童の心情を汲み取る努力をするとともに、だれもが居がいのある学級経営を心掛けたい。

2 児童は、学校でも地域でもあいさつをしている。

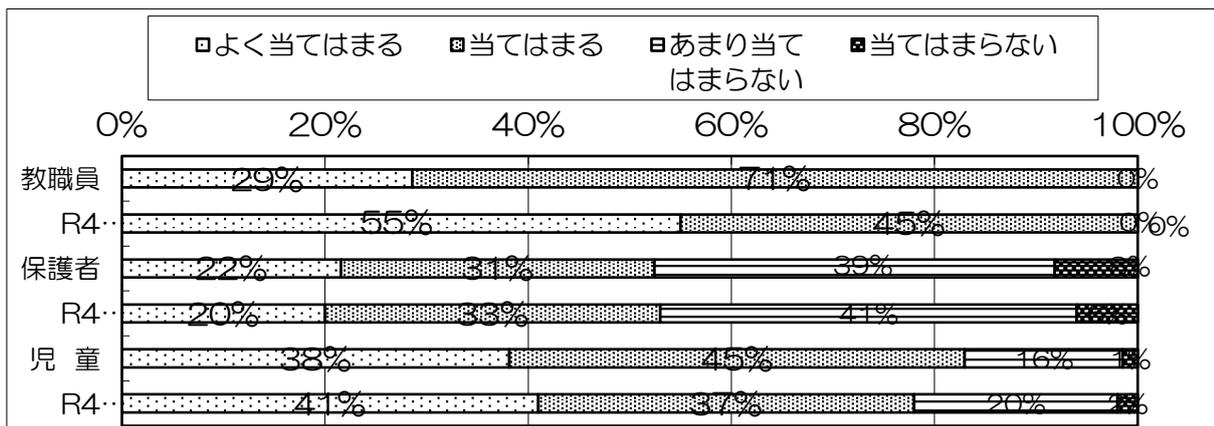
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
教職員	7%	54%	36%	4%
R4教職員	9%	73%	18%	0%
保護者	20%	55%	24%	0%
R4保護者	19%	59%	21%	1%
児童	67%	29%	3%	1%
R4児童	66%	29%	4%	1%



教職員の肯定的な回答が昨年度と比較し2割ほど減少している。コロナ禍が開けて以前のような大きな挨拶を期待しているのに対して、コロナ禍の中であまり大きな声を出さないことが定着してしまったことも一因と考えられる。児童は「よく当てはまる」の回答が7割近い結果となり、教職員や保護者の回答と違いがみられる。児童には学校教育の様々な場面で、相手に伝わるあいさつの仕方を考えたい。さらに、家庭の協力も得ながら立哨ボランティアなど地域の方にも自分から進んであいさつができるようにしていきたい。

3 児童は、読書に親しんでいる。

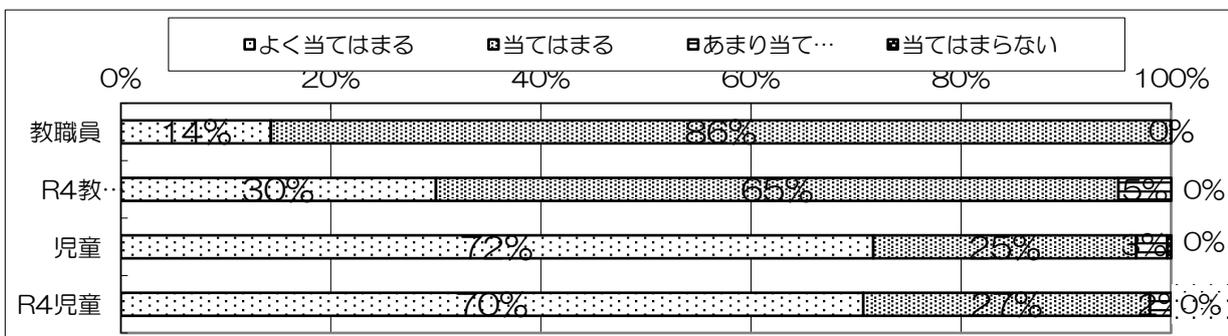
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
教職員	29%	71%	0%	0%
R4教職員	55%	45%	0%	0%
保護者	22%	31%	39%	8%
R4保護者	20%	33%	41%	6%
児童	38%	45%	16%	1%
R4児童	41%	37%	20%	2%



昨年度との比較では大きな差がみられなかった。肯定的な回答は教職員は10割、保護者は約5割、児童は約8割と結果に違いが見られた。学校では、図書室の頻繁な利用や朝の活動の時間や授業中の課題終了後に読書に励んでいるが、家庭では十分に読書に取り組めていない様子が見られる。ゲームや動画視聴などに家庭での多くの時間を使っていることも一因と考えられる。今後も、読み聞かせボランティアの方等の力をお借りし、多様な本に出会う機会をもち読書への関心を高めるとともに、メディアの利用の仕方について保護者との連携を図りながら指導していく必要がある。

4 児童は、授業中、先生の話をよく聞いたり、考えたりしている。

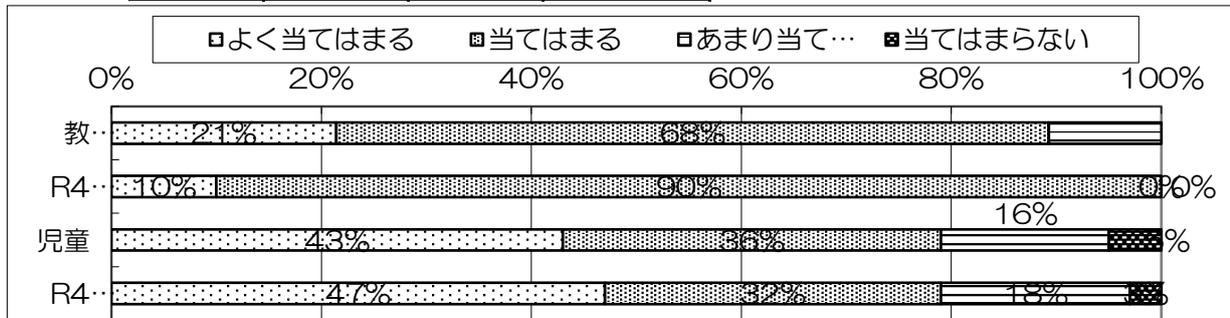
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
教職員	14%	86%	0%	0%
R4教職員	30%	65%	5%	0%
児童	72%	25%	3%	0%
R4児童	70%	27%	2%	0%



昨年度との比較では大きな差がみられなかった。「よく当てはまる」と答えた児童は7割いるのに対して、教職員は1割程度と開きがある。「よく話をきいたり、考えたり」ということに関しては、具体的な姿として見取れない部分もあるが、児童に対して考えるためには、まず先生の話や友達の話をよく聞くことから始まるということを、普段の授業から意識させたい。

5 児童は、授業中、先生や友達に自分の意見や考えを発表している。

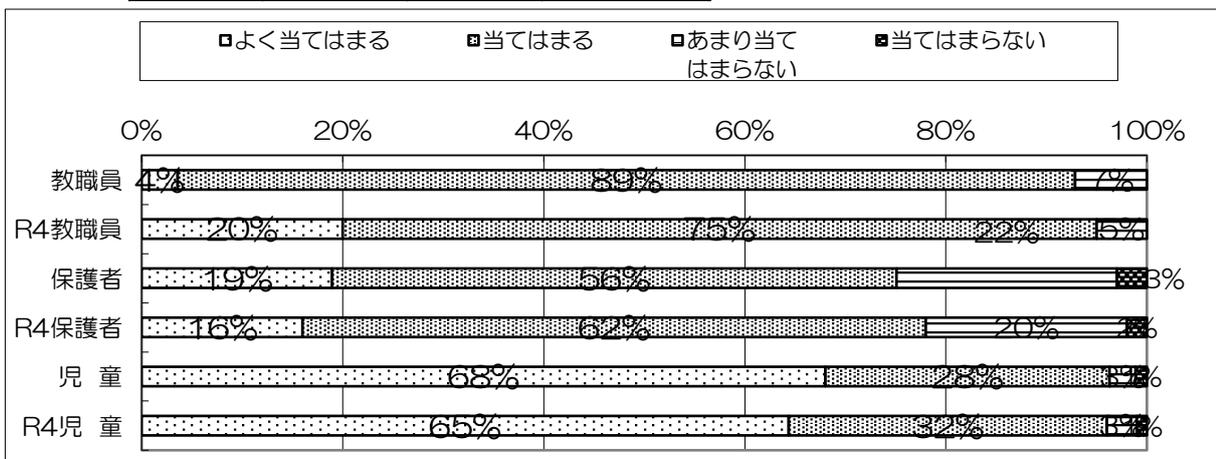
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
教職員	21%	68%	11%	0%
R4教職員	10%	90%	0%	0%
児童	43%	36%	16%	5%
R4児童	47%	32%	18%	3%



昨年度との比較では児童の回答結果に大きな変化は見られないが、教職員の否定的な回答が約1割見られた。本年度の学校課題では自分の考えを深めて学び合うことのできる力を身に付けることをねらいとしているため、そこまで到達できなかったという意識が反映しているとも考えられる。また、児童の2割程度が否定的な回答となっている。各自が考える時間を十分に取ったり、ペアやグループ等の小集団の中で、自分の意見を伝え合う場面を多く授業に取り入れたりして、発表に対して消極的な児童にも、自分の考えを伝えることに対して自信をもたせたい。

6 児童は、授業の内容をよく理解している。

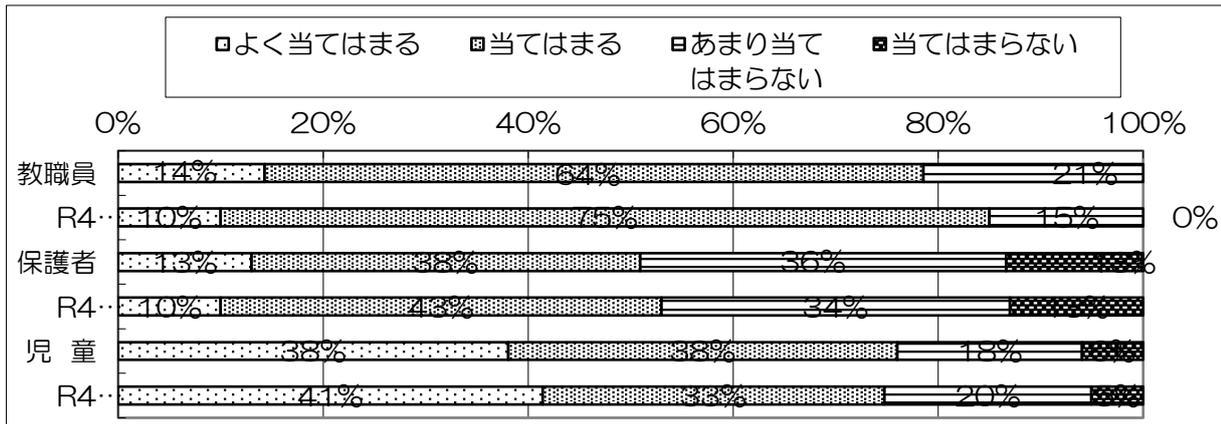
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
教職員	4%	89%	7%	0%
R4教職員	20%	75%	5%	0%
保護者	19%	56%	22%	3%
R4保護者	16%	62%	20%	2%
児童	68%	28%	3%	1%
R4児童	65%	32%	3%	1%



昨年度と比較すると教職員の「よく当てはまる」教職員が1割未満と減少している。基本的な知識や技能の習得に留まらず、活用できるような力の習得も含めたものと意識している結果ともとらえられる。また、児童の7割近くが「よく当てはまる」と答えており、教職員や保護者との結果との違いがみられる。児童には基本的な知識や技能の習得に留まらず、それらの知識や技能を、これまでに学んだことと関連付けて、他の場面でも活用できるような力を身に付けていくことの重視性を指導していきたい。

7 児童は、家庭学習の習慣が身についている。

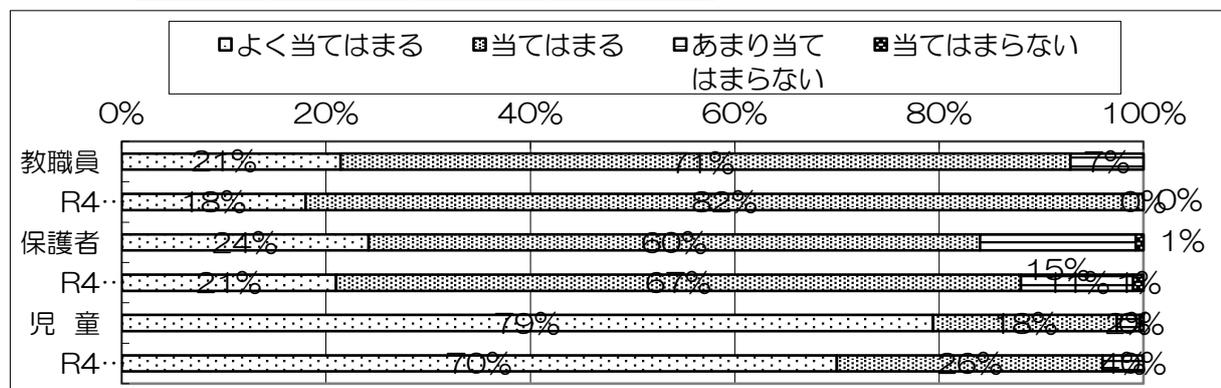
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
教職員	14%	64%	21%	0%
R4教職員	10%	75%	15%	0%
保護者	13%	38%	36%	13%
R4保護者	10%	43%	34%	13%
児童	38%	38%	18%	6%
R4児童	41%	33%	20%	5%



昨年度との比較では大きな差がみられなかった。「よく当てはまる」と答えた児童は4割程度なのに、対して、保護者と教職員は1割程度にとどまっている。とくに保護者の否定的な回答が5割程度ある。「家庭学習のヒント集」などを活用し、自主学習の例を示したり、家庭学習が習慣化できるようにしていきたい。同時に宿題が家庭での負担とならないようにしていく必要もある。さらに、学年・学級懇談会や個人面談等の機会を通して、メディアの利用の仕方も含め、家庭学習のやり方について保護者との連携を図っていく必要がある。

8 児童は、互いを思いやり、穏やかな気持ちで生活している。

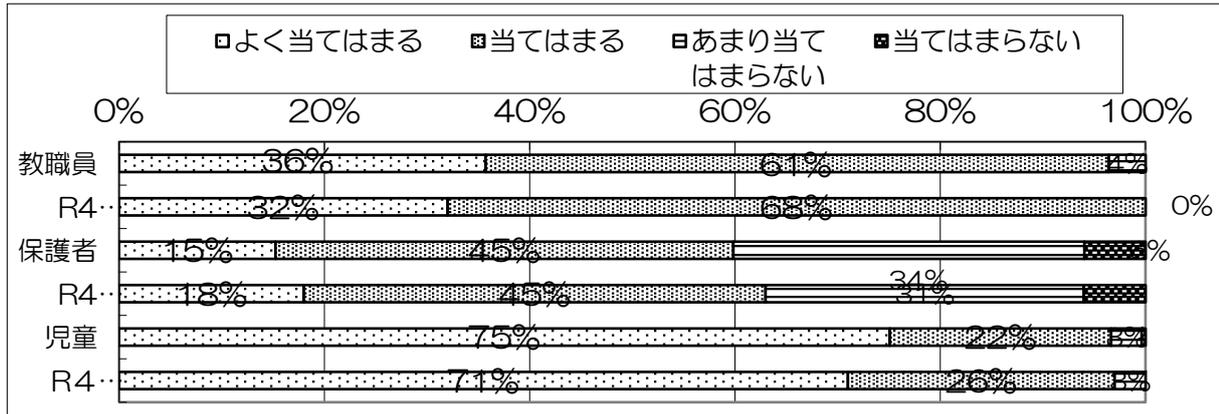
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
教職員	21%	71%	7%	0%
R4教職員	18%	82%	0%	0%
保護者	24%	60%	15%	1%
R4保護者	21%	67%	11%	1%
児童	79%	18%	2%	0%
R4児童	70%	26%	4%	0%



昨年度との比較では大きな差がみられなかった。教職員や保護者の「よく当てはまる」の回答が2割程度に対して児童の回答は8割程度となっている。学校生活の中で心ない言動等が原因で、トラブルや不登校につながるようなことがあることも現状である。今後も、人権教育の推進を図り、児童相互の関わり、教師と児童との関わりを多くし、互いに思いやり助け合えるような場を設定していきたい。

9 児童は、清掃や係の仕事を進んで行っている。

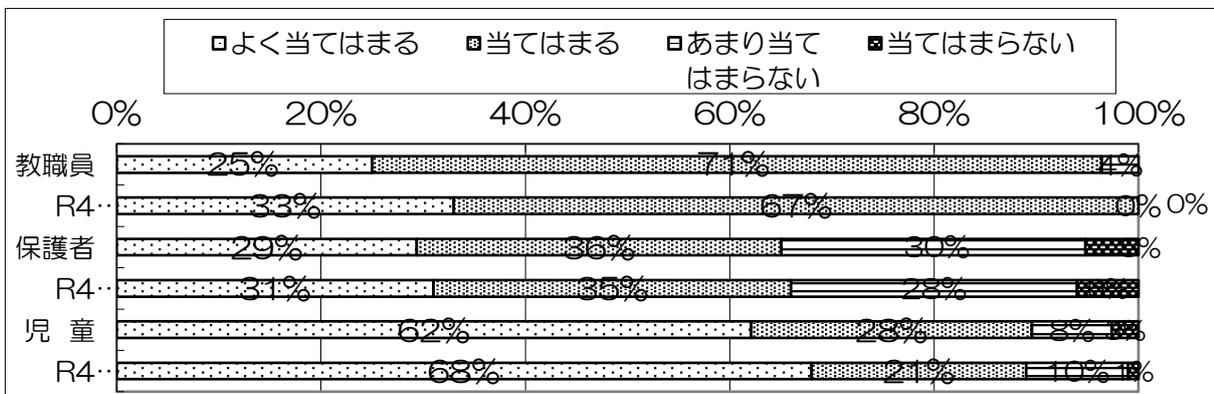
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
教職員	36%	61%	4%	0%
R4教職員	32%	68%	0%	0%
保護者	15%	45%	34%	6%
R4保護者	18%	45%	31%	6%
児童	75%	22%	3%	0%
R4児童	71%	26%	3%	0%



昨年度との比較では大きな差がみられなかった。教職員と保護者と児童で回答結果に大きな違いがみられた。特に教職員と児童の否定的な回答が1割以下だったのに対して保護者の否定的な回答が4割となっている。学校では清掃や係の仕事等よくできるが、家庭では十分にできていないとも考えられる。生活科や家庭科などを通して、家族の一員として自分でできることに積極的に取り組ませたい。また、長期休業中を含め家庭で働く場を増やせるよう家庭との連携も図りたい。

10 児童は、進んで運動し、体力づくりをしている。

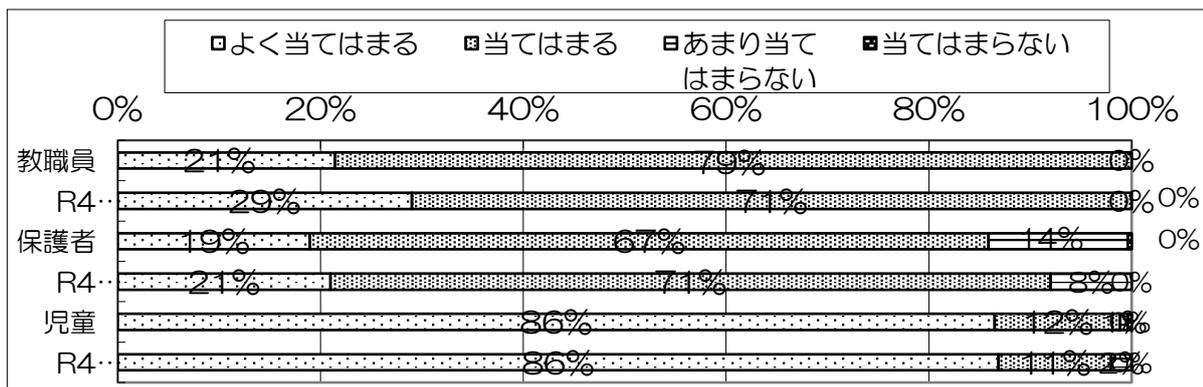
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
教職員	25%	71%	4%	0%
R4教職員	33%	67%	0%	0%
保護者	29%	36%	30%	5%
R4保護者	31%	35%	28%	6%
児童	62%	28%	8%	3%
R4児童	68%	21%	10%	1%



昨年度との比較では大きな差がみられなかった。教職員の否定的な回答がほぼないのに対して、保護者は4割近く見られる。学校では体育などを通して運動をする機会があるが、家庭ではスポーツクラブ等に入っている児童とそうでない児童があり二極化が進んでいるともとらえられる。学校教育全体の中で、体育を中心に体を動かす楽しさを重視し、生涯スポーツにつなげるとともに、自分に合った目標をもたせ、継続して運動に取り組み体力の向上が図れるよう、指導を工夫していきたい。

11 楽しさを実感できる授業、分かる授業を工夫し学力の向上に努めている。

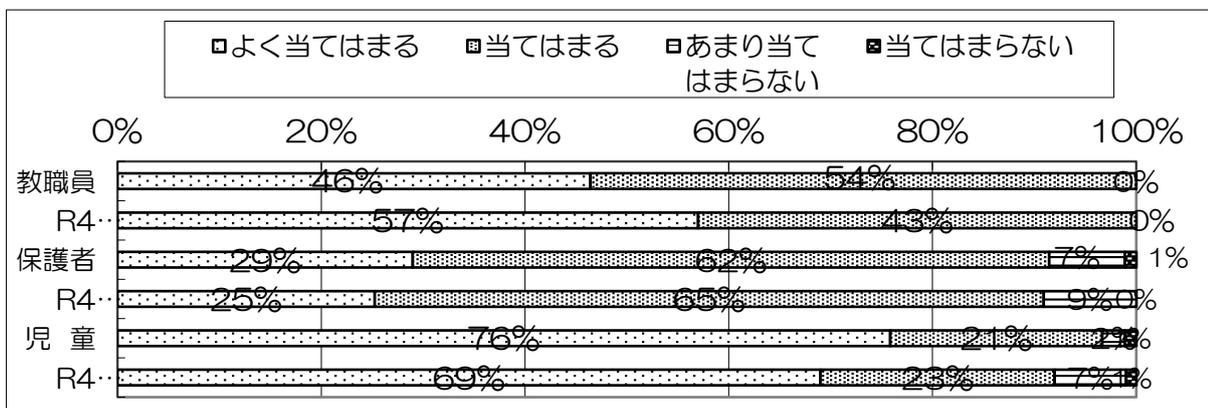
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
教職員	21%	79%	0%	0%
R4教職員	29%	71%	0%	0%
保護者	19%	67%	14%	0%
R4保護者	21%	71%	8%	0%
児童	86%	12%	1%	0%
R4児童	86%	11%	2%	0%



昨年度との比較では大きな差がみられなかった。教職員と保護者の「よく当てはまる」の回答が2割程度なのに対して児童の回答は9割近い。しかし、保護者の否定的な回答が1割を超えている。ICT機器の活用などを通して個別最適な学習の推進を図りたい。児童の高評価に甘んじることなく、今後も楽しく分かりやすい授業とともに、協働的な学習等を通して、様々な社会変化を乗り越え、持続可能な社会の作り手となるような力を付けることを目指したい。

12 児童相互のトラブルや悩みなどに誠意をもって対応している。 (一人一人を生かした学級経営を行っている。)

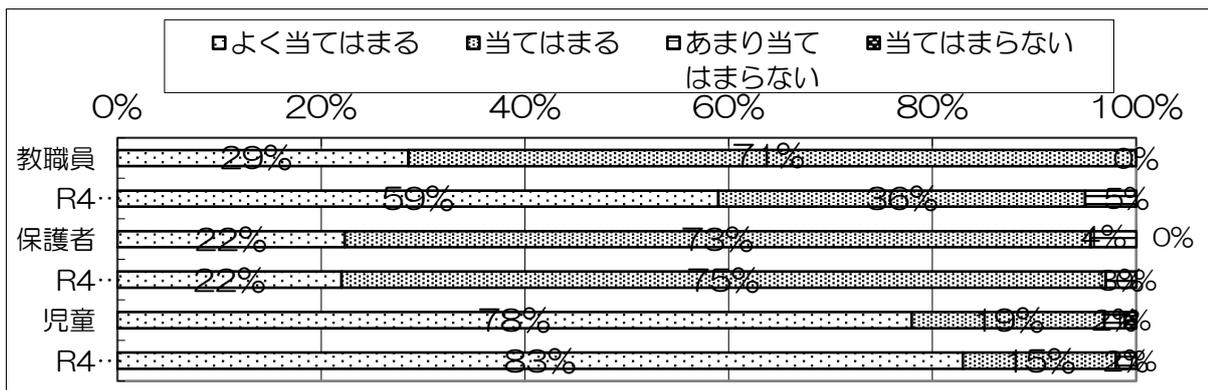
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
教職員	46%	54%	0%	0%
R4教職員	57%	43%	0%	0%
保護者	29%	62%	7%	1%
R4保護者	25%	65%	9%	0%
児童	76%	21%	2%	1%
R4児童	69%	23%	7%	1%



昨年度との比較では大きな差がみられなかった。教職員と児童の肯定的な回答が10割に近いのに対して、保護者の否定的な回答が1割近く見られる。児童の小さな変化やトラブル等に対して機会を逃さず対応するとともに、保護者とも連携を図ることに心掛けたい。

13 安全教育を充実し、安全の意識や態度を育てている。

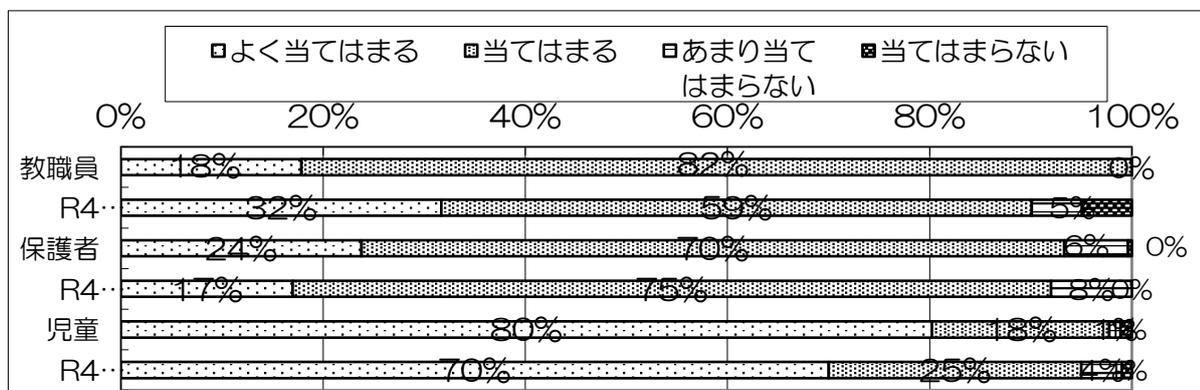
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
教職員	29%	71%	0%	0%
R4教職員	59%	36%	5%	0%
保護者	22%	73%	4%	0%
R4保護者	22%	75%	3%	0%
児童	78%	19%	2%	1%
R4児童	83%	15%	2%	0%



昨年度と比較すると教職員の「よく当てはまる」の回答が3割ほど減少している。安全については交通事故や地震や火災だけでなく、不審者侵入や熱中症対策など様々なリスクへの対応をしていかなければならないという意識の表れともうかがえる。また、教職員や保護者の「よく当てはまる」の回答が2割から3割程度なのに対して、児童の回答は8割近い。交通安全指導や避難訓練等を通して安全への意識を高めるだけでなく、生活の中での様々な危険を予測し対応できる能力を更に高めたい。

14 食育に積極的に取り組み、児童の食への関心や感謝の気持ちが高まった。

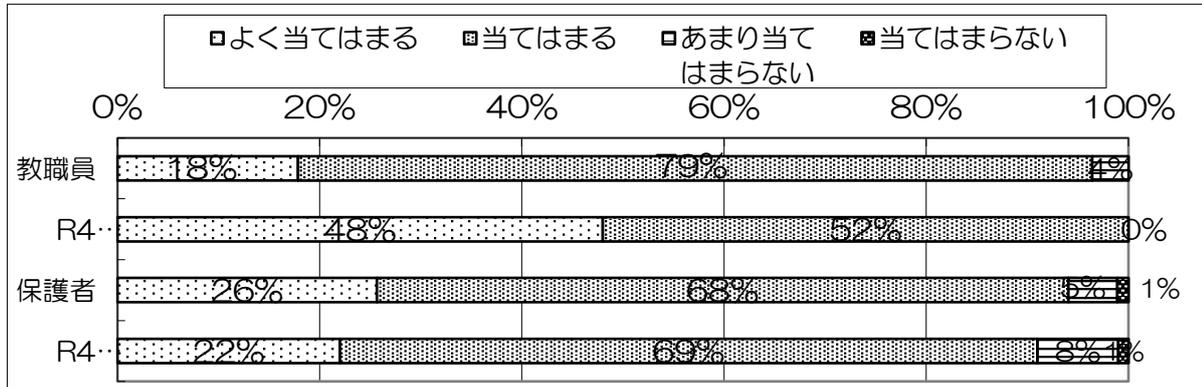
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
教職員	18%	82%	0%	0%
R4教職員	32%	59%	5%	5%
保護者	24%	70%	6%	0%
R4保護者	17%	75%	8%	0%
児童	80%	18%	1%	1%
R4児童	70%	25%	4%	1%



昨年度との比較では肯定的な回答の結果に大きな差がみられなかった。児童・保護者・教職員ともに9割以上が肯定的な回答となっている。生活科で作物を育てたり、学校栄養職員による地場産の食材の紹介や学級活動での栄養指導が、児童の食育により影響を与えていることがうかがえる。今後も引き続き食育の推進を図りたい。

15 学校の教育方針や取り組みを各便りや懇談等で分かりやすく伝えている。

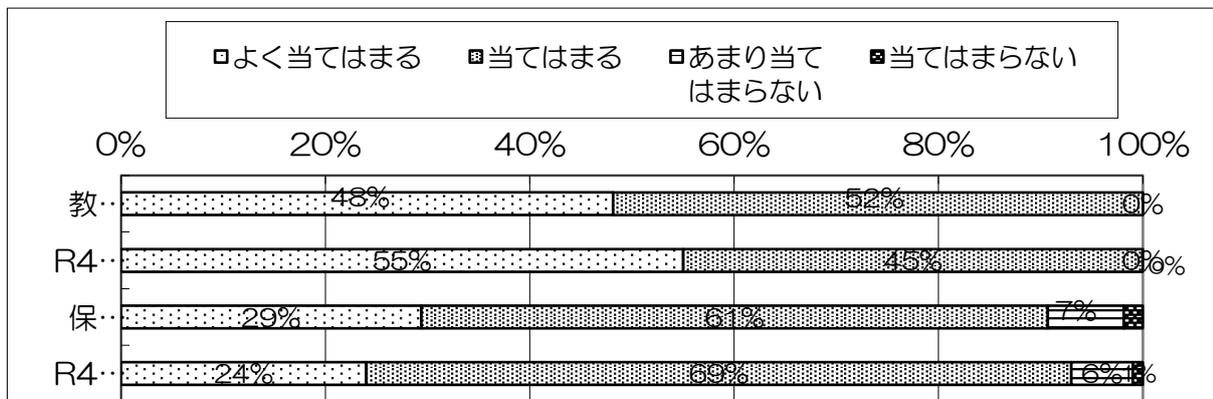
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
教職員	18%	79%	4%	0%
R4教職員	48%	52%	0%	0%
保護者	26%	68%	5%	1%
R4保護者	22%	69%	8%	1%



教職員、保護者ともに9割以上が肯定的な回答をしている。学校だよりや学年だよりに加え、ホームページでの情報公開も積極的に進めてきており、閲覧数も伸びている。引き続きいろいろな方法で、学校の様々な教育活動の様子の発信をしていきたい。しかし、昨年度と比較し教職員の「よく当てはまる」の回答が3割減少している。今年度は学級懇談会の機会がもてなかったことも影響していると考えられる。授業参観(ファミリー参観)方法も来年度に向けて検討したい。

16 学校行事やファミリー参観、授業参観など年間を通して適切に計画され、実践されている。

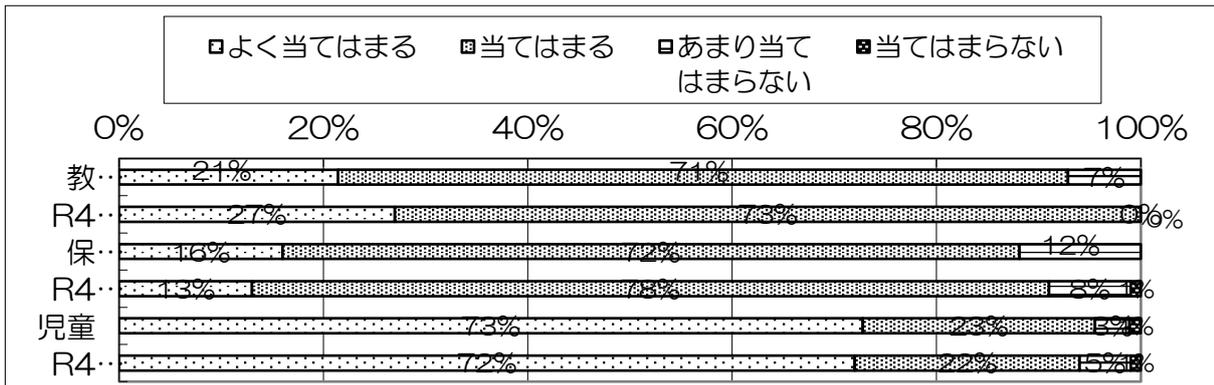
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
教職員	48%	52%	0%	0%
R4教職員	55%	45%	0%	0%
保護者	29%	61%	7%	2%
R4保護者	24%	69%	6%	1%



教職員、保護者ともに9割以上が肯定的な回答をしている。今の行事や授業参観等のもち方に、多くの方は満足していると考えられる。ただ、PTA活動なども含めると負担が多いと意見もあった。共働きの家庭が多いことを考慮すると、PTA活動も含め、開催時期が集中しないように配慮するとともに、早めの周知を心掛け、より多くの保護者が無理なく参加できる行事等の持ち方を工夫していきたい。

17 地域の教育力を生かして、ふるさとを愛する心を育てている。

	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
教職員	21%	71%	7%	0%
R4教職員	27%	73%	0%	0%
保護者	16%	72%	12%	0%
R4保護者	13%	78%	8%	1%
児童	73%	23%	3%	1%
R4児童	72%	22%	5%	1%



昨年度との比較では肯定的な回答の結果に大きな差がみられなかった。教職員、保護者、児童ともに9割以上が肯定的な回答をしている。特に児童の「よく当てはまる」の回答が7割を超えており、地域を愛着心が育まれていることがうかがえる。第3学年では、社会科や総合的な学習の時間で地域に関わる内容が多いので、いちご農家や、消防団、お囃子保存会など地域の人材等の協力を得ながら、効果的な学習を引き続き行いたい。地域コーディネーターや公民館、町づくり協議会とも連携し、児童のふるさとを愛する心情を更に育てていきたい。